

Vascular

SCORE Linkが導く アンギオシステムの持続的成長



名越 良治 先生

大阪府済生会中津病院 循環器内科
名越 良治

要旨

本稿では、当院で使用中のTrinias series with SCORE Operaについて紹介する。
この装置はAI画像処理技術を搭載しており、低線量で高品質な画像を提供することで、患者の安全性を確保しつつ、高度な治療のサポートが可能となっている。また、SCORE Linkによる定期的なアップデートにより、最新の機能やアプリケーションが常に利用可能となり、音声コントロール機能の追加などが行われ、臨床現場での継続的な利便性向上に寄与している。

1. 初めに

当院はJR大阪駅のほど近く、大型商業施設の空中回廊を抜けた先に位置する。設立は1916年(大正5年)、100年を超える歴史を持っており、済生会病院の中でも3番目に古い病院である。「施薬救療の精神(恵まれない人々のために施薬救療によって生活困窮者を救済しよう)」をもとに、明治天皇が1911年(明治44年)に設立した済生会は、生活困窮者支援の積極的推進、最新医療による地域貢献、シームレスな医療と福祉という3つの目標のもと、活動を続けている。当院では31の診療科に約210名の医師、約1,600名のスタッフが勤務し、幅広い疾病の診療にあたっている。

循環器内科が使用しているカテーテル室は3部屋あり、そのうちの1室では2023年1月より、島津製作所社製のTrinias B8s with SCORE Opera(以下Trinias Opera)が稼働している(Fig.1)。この装置の最大の特徴はAI画像処理が搭載されていることであり、低線量でも明瞭な画像が得られる。また、ユーザーインターフェースも非常に使いやすく、特にベッドサイドで簡単に線量コントロールができるなど、きめ細やかな線量調整が可能である。パイプレンを用いることで造影剤使用量の低減も実現されており、患者及び医療スタッフの両者に優しい装置といえる。

Trinias Operaは納入後に2度のアップデートが行われ、より洗練された装置へと成長している。本稿では、成長した最新のTrinias Operaの特徴について述べる。

2. SCORE Linkによる成長

当院のTrinias Operaは、島津製作所が提供するアプリケーションプラットフォームSCORE Linkを契約している。血管撮影装置は高額のため長期にわたり使用する機器であるが、数年使用していると、最新機種に搭載されている新しい機能やアプリケーションが利用できず、不便を感じることもある。



Fig.1 導入されたTrinias B8s with SCORE Operaと筆者

SCORE Linkでは、毎年契約更新時に装置が最新の状態にアップデートされるため、常に最新の機能やアプリケーションを使用できるという大きな利点

ドをメインで使用し、より鮮明な画像が必要な場合には線量を標準に戻し、また慢性完全閉塞病変などの長時間の手技時には使用線量に応じて、適宜線量

続きはこちら

医療従事者向け会員制サイト
「SHIMADZU MEMBERS CLUB」(無料)になります。
ご登録後にWEBで全文をお読みいただけます。